

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	フレデリーさんじょう		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎朝のミーティングによる徹底した情報共有と迅速な対応。	毎朝のミーティングで、利用児童の状況、訪問先での様子、保護者からの相談内容、支援上の留意点などを職員間で共有し、必要な対応をその日のうちに確認できるようにしている。	共有した内容が支援の質向上によりつながるよう、記録の活用や振り返りを充実させ、職員間で支援の視点や対応方法をより具体的に蓄積していく。
2	訪問先施設(学校)の意向を尊重し、密な連携が図れている点。	訪問先施設の支援方針や学級の状況、先生方の思いや困り感を丁寧に確認し、学校の流れを尊重しながら支援に入ること、無理のない連携と役割分担を意識している。	訪問後の振り返りや情報共有の機会をさらに充実させ、支援のねらいや効果をより分かりやすく共有しながら、継続的な連携体制の強化につなげていく。
3	保護者一人ひとりの悩みに寄り添い、丁寧なフィードバックを行っている点。	訪問後には、保護者に対して学校での様子や支援内容、訪問先施設との共有事項を分かりやすく伝え、不安や悩みに応じて丁寧に相談対応を行っている。	保護者へのフィードバックがより安心や支援の見通しにつながるよう、伝え方や共有内容を工夫しながら、家庭・学校・事業所の三者での共通理解をさらに深めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援に特化した教材や支援ツールの活用については、今後さらに充実の余地がある。	現在は訪問先施設的环境や先生方の支援を尊重しながら支援を行っているため、事業所独自の教材活用の機会が限られている。	訪問先の負担にならない範囲で活用できる教材や支援ツールを整理し、必要時に提案できるよう準備を進める。
2	家族同士の交流や家族支援プログラムの提供は、まだ十分に実施できていない。	個別支援や訪問支援を中心に行っており、保護者同士がつながる場や学びの機会づくりまで十分に広がっていない。	情報提供や小規模な交流の機会づくりから始め、保護者が参加しやすい形で家族支援の充実を図る。
3	地域の会議や外部との連携機会への参加は進めているが、さらに広げていく必要がある。	日々の訪問支援や事業所運営を優先する中で、地域活動や外部会議への継続的な参加時間の確保が難しいことがある。	参加可能な会議や研修を整理し、計画的に参加しながら、地域の支援機関とのつながりを深めていく。